

父の懲らしめ

2025年6月8日

ヘブル人への手紙 12章4～13節
ヤコブの手紙 1章2～17節

序：ローマ帝国の各地に離散しているユダヤ人キリスト者あて
皇帝礼拝など、信仰上の圧迫が強まっていた
同胞のユダヤ人からの迫害
背教の懸念、迫害への恐怖心
勧めと励まし

主イエス・キリストが通られた苦難・十字架上の死・復活・昇天
キリストを信じる者たちの目当て、これから辿る苦難の道、勝利・栄光

I. 訪れようとしている激しい苦難・迫害の予告 4節

信仰上の試練は殉教も含まれる
前例：ヤコブ、ステパノ

今後 AD60年代にペテロや使徒たち
ヨハネはAD90年代 生存

まだ、殉教によって信仰の証しをたてたことはないが、これから通って行く道

II. 父なる神の懲らしめ

この苦難・試練：愛に基づく懲らしめ

(1)試練と誘惑の違い ヤコブ 1・2～17
どちらも「試み」

試練

与えるのは神

目的は人をよくするため
成長させるため

信仰が試される
信仰 → 忍耐 → 祈り

信仰において勝利
いのちの冠を受ける

誘惑

悪魔

人を悪くするため
墮落・神から離反させるため

自分の欲に引かれて誘惑される
欲 → 罪 → 死

信仰において敗北
滅び・死が報い

(2)懲らしめは父の子に対する愛の現れ 5～8節

箴言 3・11～12

主は愛する者を懲らしめる
愛ゆえ（子として扱う）
ふさわしい者となるように
罪を責め、むちを加えて矯正、訓練する（父として当然）

私生児ではなく、真の子ども

(3)霊の父の懲らしめと肉の父の懲らしめ

霊の父（天の父）

常に

私たちの益のため
ご自分の聖さにあずからせるため

肉の父（地上の父）

短い時間

自分の思いのままに
自分に従わせるため

両方とも子を懲らしめる
子が服従するよう求めている
子が父を敬い、敬意をもって懲らしめを受け入れるよう願っている
子がよくなるのが目的

(4)「叱る」と「怒る」

冷静	感情的
客観的	主観的
相手の益	自分の益

父は子を叱る（子への愛） 父が子に怒る（自分への愛）

Ⅲ. 父なる神の懲らしめの目的

(1)ご自分の聖さにあずからせるため
多くの苦しみを経ることによってのみあずかれる
(はじめは喜ばしいものでなく、悲しみ)

(2)懲らしめを父から子への真実な愛として受け入れる心を持つ

(3)懲らしめは自分をよくしようとして与えられることを理解する

Ⅳ. 懲らしめの結果

(1)訓練された人々に平安な義の実を結ばせる ヨブ 33・19～28
詩 119・67、71
マタイ 5・10～12
Ⅱテサ 1・4～12
使徒 14・22

(2)訓練された人々は、御国の祝福、価値を味わう（地上で前味を）

(3)平安な義の実は、戦い・苦難を通った者だけが得ることができる

Ⅴ. 結び

(1)懲らしめを与えるのは天の父である神
私たちをよくするため
神の聖さにあづからせるため

(2)愛する子への愛のむち：訓練を耐え忍びなさい
耐え忍ぶことができるようにしてくださるのも神

(3)懲らしめを受けることで、子が父の愛を知り、父を敬い感謝する（ずっと後で？）

(4)今のことでなく、将来の、永遠にまでスパンを広げて鳥瞰する霊の目を養われたい 結果・ゴールを常に見据える

(5)日常生活での「叱る」と「怒る」

(6)懲らしめを通して、むしろ神との関係が親密になり、信頼が深まるように